

事務事業事後評価シート[令和1年度事業]

1. 基本情報

■事業の担当課	鬼の館	■担当係	鬼の館
■評価事業名称	常設展・企画展等		
■事業開始年度	平成6年度		
■評価事業コード	418300 - 012	■会計区分	一般会計
■総合計画での位置づけ	■政策	02 生きる力を育み、文化が躍動するまちづくり	
	■基本施策	02 社会教育の充実	
	■施策	03 社会教育機能の充実	
■事業の種類	05 ソフト事業(任意)	■政策・業務区分	政策
■法令の根拠区分	法令に特に定めのないもの		
■法令等の名称			
■関連計画の名称			
■事業の目的と概要	鬼について学習する機会を提供することで鬼についての理解や知識が向上する。また、施設開放事業を行うことで市民が博物館施設を活用しやすくなり情報交換が活発化する。常設展示の内容を補足拡大する企画展・特別展や展示室等の施設開放事業を実施する。		

2. 細事業の活動実績情報

細事業コード	細事業名称	事業の対象	令和1年度事業計画	令和1年度事業量実績
01	企画展・特別展	一般	●企・特別展回数4回 ●見学者数 20,000人 ●ナイトミュージアム 1日間 来館者数200人	●企・特別展回数 3回 見学者数 22,180人 ●テーマ・パネル展回数 2回 見学者数 8,167人 ●ナイトミュージアム開催回数 1日 来館者数 159人
02	受付案内・入館料徴収事務	来館者	●入館者数23,000人 ●催事カレンダー6,000部 ●鬼の館だより400部×2回	●入館者数 26,163人 ●催事カレンダー 8,000部 ●鬼の館だより 400部×2回
03	収蔵資料管理・資料収集業務	鬼の館の資料	●修繕資料数 0点 ●購入資料数 1点 ●寄贈資料数3点程度	●修繕資料数 0点 ●購入資料数 0点 ●寄贈資料数 3点(絵画、人形、写真)

3. 投入コスト情報

(単位:千円)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和1年度	備考
直接事業費	1,137	1,246	1,231	1,170	
人件費	5,782	5,557	6,203	6,261	
その他(公債費・減価償却費等)					
フルコスト	6,919	6,803	7,434	7,431	

4. 評価指標等の状況

事務事業事後評価シート[令和1年度事業]

指標コード	指標名	28年度	29年度	30年度	1年度	指標の説明
01	開催回数	3回	4回	3回	5回	年間の企画展・特別展の回数
02	企画展・特別展見学者数	16,005人	20,267人	12,373人	30,347人	企画展・特別展見学者数 展示期間の重複があるため入場者数を上回る
03	企画展等1回当たりコスト	2,306千円	1,700千円	2,478千円	1,486千円	フルコスト÷01
04	見学者1人当たりのコスト	0.43千円	0.33千円	0.60千円	0.24千円	フルコスト÷02

5. 事後評価(「政策」事業類型5・6のみ)

■目標達成状況

- A. 順調
- B. 概ね順調
- C. 遅れている

達成状況の分析

今回の企画展・特別展のなかにラグビーワールドカップに対応したテーマ展や1年の事業を振り返るパネル展など多様な展示ができた。

問題点・課題等

展示の幅が広がり、内容が広く浅くなっているため、見学者から不満の声がある。これからの展示は、展示テーマに対してより深い内容の展示を企画することが課題。

1. 直接的な受益者の範囲

- 不特定多数に及ぶ
- 特定されるが多数に及ぶ
- 特定少数に限定される

2. 国・県・民間との競合関係の有無

- 類似の事業はない
- 類似の事業はあるが競合はない
- 類似の事業があり競合する

3. 事業廃止の影響・貢献度

- 事業の廃止により重大な問題が発生する
- 事業の廃止により何らかの問題が発生する
- 事業の廃止による問題は想定されない

4. 市民生活・企業活動への貢献度

- 市民生活・企業活動の維持に不可欠
- 市民生活・企業活動の維持に一定程度貢献している
- 市民生活・企業活動の維持への貢献度は低い

5. 事業廃止の影響を受ける受益者の割合

- 1. で選択した人の大多数(70%程度)
- 1. で選択した人の半分程度(50%程度)
- 1. で選択した人の少数(30%程度)

6. 事業へのニーズの変化

- ニーズが高まっている
- ニーズは変わらない
- ニーズが低下している又は合致しない

7. 施策の改善需要度(市民意識調査)

- 順位が高い
- 順位が中程度
- 順位が低い

8. 施策の優先度(市民意識調査)

- 順位が高い
- 順位が中程度
- 順位が低い

9. 他市町村に比較しての優位性

- 先進的またはユニークな事業である
- 他と同程度の事業である
- 遅れている事業である

10. 実施主体の代替性

- 民間委託等の拡充は難しい
- 民間委託等の拡充が十分に可能
- 全部委託や実施主体の移行が可能

11. 経済性・効率性の向上

- 今以上の効率化や改善は難しい
- 効率化や改善を図ることは十分に可能
- 効率化や改善の余地が大きい

■事業の見直し方策(評価項目2.4の補足説明含む)

他の博物館と連携し、資料の借用等を行い展示内容を充実させることで、観覧者の満足度を高める。

■今後の方向性

- I. 拡充
- II. 継続
- III. 縮小
- IV. 廃止・休止
- V. 完了